

エコアクション21

環境活動レポート

(対象期間: 2015年4月1日～2016年3月31日)



2016年7月15日

東京特殊車体株式会社

目 次

1.	組織の概要	1
2.	環境方針	2
3.	環境活動の実施体制	4
4.	過去3年間の環境負荷の状況	5
5.	環境目標(中期3ヶ年計画).....	7
2015～2017年度		
6.	今年度の環境目標と実績、次年度の取り組み.....	8
7.	環境関連法規等の遵守状況並びに違反、訴訟等 の有无.....	10
8.	代表者による評価および見直し.....	10

1. 組織の概要

1. 事業所名
東京特殊車体株式会社
2. 代表者氏名
取締役社長 八木 英樹
3. 所在地
〒192-0907 東京都八王子市長沼町 1304 番地の 1
4. 環境管理責任者
取締役総務部長 木村 英樹
連絡先：TEL: 042-644-3517 E-Mail : hideki.kimura@toutoku.co.jp
5. 事業の規模
資本金 : 40,000 千円
年商額 : 2,643 百万円(2015 年度実績)
主要品生産量 : その他製造業 (特種車両の製造 : 102 両 (2015 年度実績))
従業員数 : 63 名 (2016 .3.31 現在)
延床面積 : 5,740 m²
敷地面積 : 8,366 m²
6. 事業活動の内容
各種特種車両の設計・製造販売・修理
7. その他
設立年月日 : 1967 年 2 月 10 日

認証・登録の対象組織・活動

登録組織名	: 東京特殊車体株式会社
関連事業所	: なし
登録対象外	: なし
活 動	: 各種特種車両の設計・製造販売・修理

2. 環境方針

環境方針

東京特殊車体株式会社は、「環境にやさしく」という京王グループ理念に基づき、環境保全に配慮し、環境負荷低減を目指した事業活動を行います。

1. 環境保全活動を推進するにあたり、技術的・経済的な事情を勘案のうえ、京王グループ環境基本方針に沿って、以下に掲げる環境負荷項目の低減に努めます。
 - (1) 二酸化炭素排出量の削減
 - (2) 廃棄物排出量の抑制と再利用の向上
 - (3) 節水の実践
 - (4) 化学物質使用量の削減
 - (5) グリーン調達の推進
2. 環境保全活動を継続して実施するため、具体的な環境目標・活動計画を策定して取り組みます。また、環境目標は定期的にあるいは必要に応じて適時見直しを行います。
3. 環境に関する法令、規制その他公的基準を遵守します。
4. 環境方針を全従業員に周知するとともに、環境に配慮した製品・サービスを提供することにより、全社一丸となって環境保全に貢献します。
5. 環境保全活動等については、環境活動レポートとして公表します。

制定 2012年 1月 1日

東京特殊車体株式会社
取締役社長 八木 英樹

《参考》系列グループの理念および環境基本方針

「京王グループ理念」

私たち京王グループは、
つながりあうすべての人に誠実であり、環境にやさしく、
「信頼のトップブランド」になることを目指します。
そして、幸せな暮らしの実現に向かって
生活に溶け込むサービスの充実に日々チャレンジします。

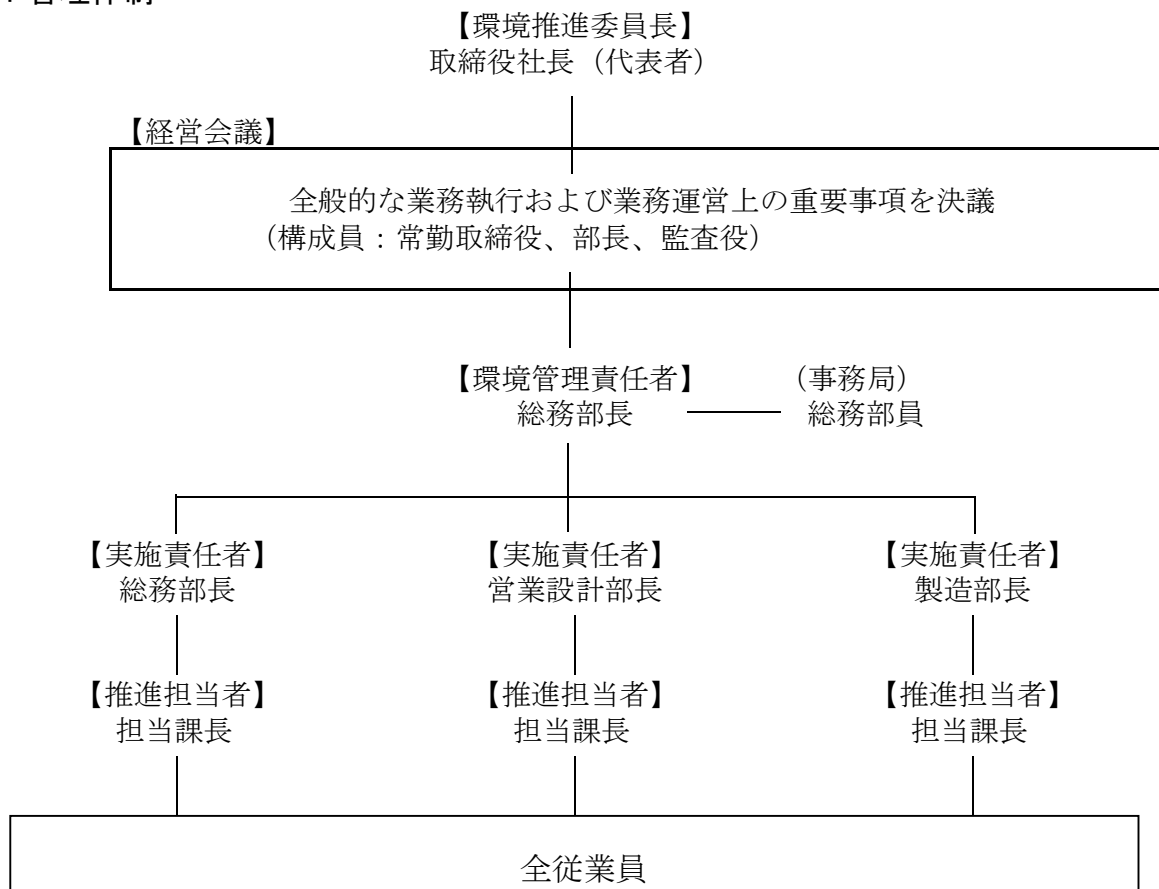
「京王グループ環境基本方針」

私たちは、「環境にやさしく」というグループ理念に基づき、環境問題を地球規模で考え、持続的発展が可能な社会の実現を目指して、環境保全に配慮した事業活動を行います。

1. 地球温暖化防止のため、エネルギーの効率利用に努めます。
2. 循環型社会実現のため、廃棄物の削減、リサイクルおよび適正処理を図るとともに汚染の予防に努めます。
3. 環境に関する法令、条例、協定などを遵守します。
4. 地域社会との調和を目指し、騒音、振動の抑制ならびに緑化活動の推進に努めます。
5. より良い環境の実現に向けて、地域や社会の環境保全活動に積極的に参加します。
6. 従業員一人ひとりの環境意識向上を図るため、啓蒙・教育活動を実施します。
7. これら環境保全環境を推進するため、鉄道をはじめとするすべてのグループ会社の事業活動において環境マネジメントシステムを構築し、継続的改善に取り組めます。

3. 東京特殊車体(株)環境管理体制及び役割

1. 管理体制



2. 役割分担

名称	役割・責任	
環境推進委員長 (代表者)	<ul style="list-style-type: none"> 環境活動全般の推進 環境管理責任者の任命 環境活動の評価、見直し（毎年1回） 	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の作成 経営資源の確保
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 活動の構築、運用 各種会議体の開催 代表者への報告 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局運営 取組み状況の確認と改善 外部からの苦情の窓口
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境責任者、運営のサポート 環境活動レポートの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 各種データの取得、記録 啓蒙活動の推進
実施責任者	<ul style="list-style-type: none"> 各部門の統括 推進担当者のフォロー 	<ul style="list-style-type: none"> 活動計画実施状況の監督
推進担当者	<ul style="list-style-type: none"> 活動計画の実務推進 環境活動の実施状況の報告 取組みに対する意見の集約、具申 	
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解、取組みの意義・重要性の自覚 環境活動への参加、環境計画の実行 	

4. 過去3年間の環境負荷の状況

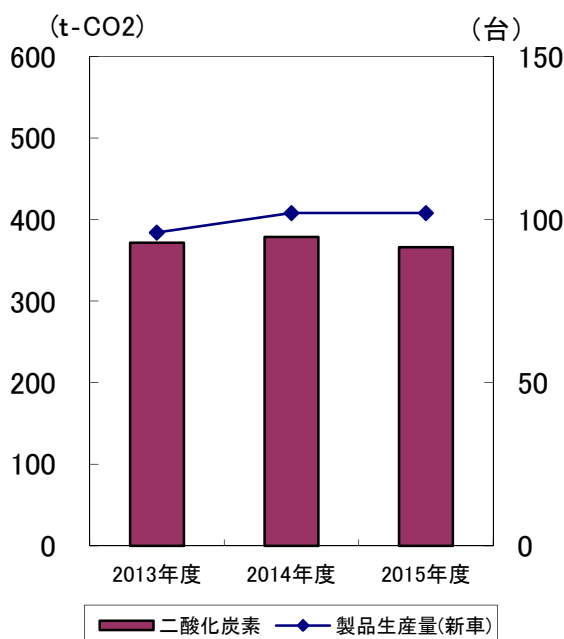
環境への負荷(指標及び種類)		単位	2013年度	2014年度	2015年度	
			2013.4-2014.3	2014.4-2015.3	2015.4-2016.3	
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	t-CO ₂	371.5	378.8	365.9	
② 廃棄物排出量	資源物	再生利用	t	141	144	126
		焼却処理	t	4	4	4
	産業廃棄物	中間処理	t	61	60	54
③-1 総排水量	下水道	m ³	1,088	1,085	1,300	
③-2 水使用量	上水	m ³	248	238	230	
	地下水	m ³	1,019	1,030	1,286	
④ 化学物質使用量	PRTR	kg	2,190	2,306	3,139	
	都管理物質	kg	2,860	2,652	3,415	
	総排出量	kg	3,296	3,132	4,188	
⑤ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)	MJ	5,464,886	5,980,824	5,686,240	
	化石燃料	MJ	2,767,656	2,611,605	2,503,353	
⑥ 物質使用量	資源使用量	t	269.0	273.3	354.0	
⑦ サイト内で循環的利用を行っている物質等	利用された物質	-	対象なし	対象なし	対象なし	
	水の利用量	-	対象なし	対象なし	対象なし	
⑧ 総製品生産量	製品生産量(新車)	台	96	102	102	

※CO₂排出量の計算に使用した電気のCO₂排出係数は

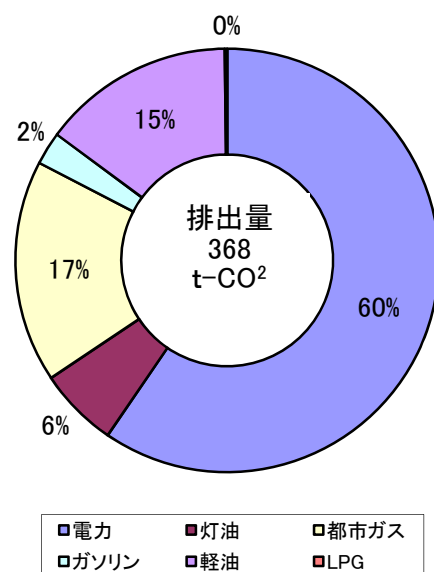
2014年度までは 0.377kg-CO₂/kWh

2015年度からは 0.382kg-CO₂/kWhで算出してます

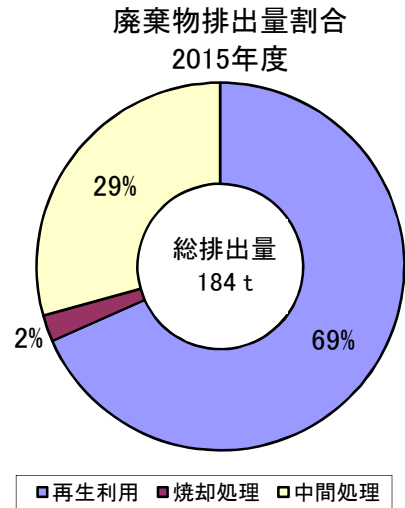
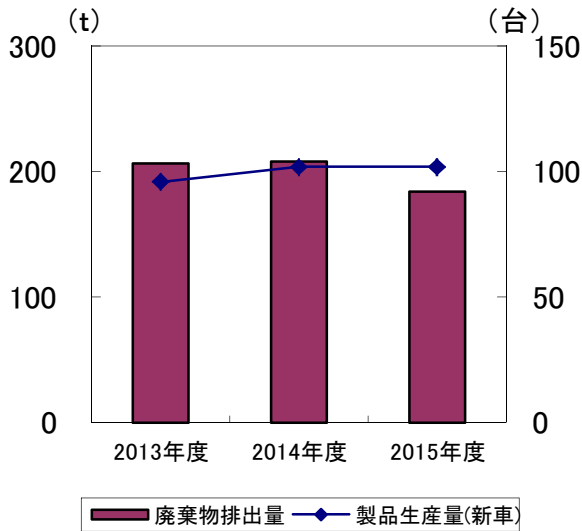
二酸化炭素排出量と生産量



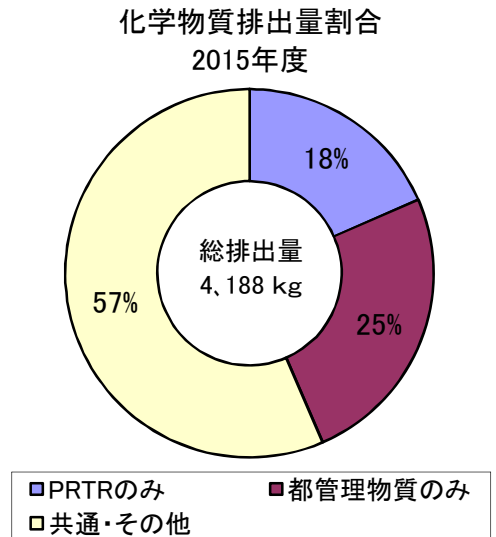
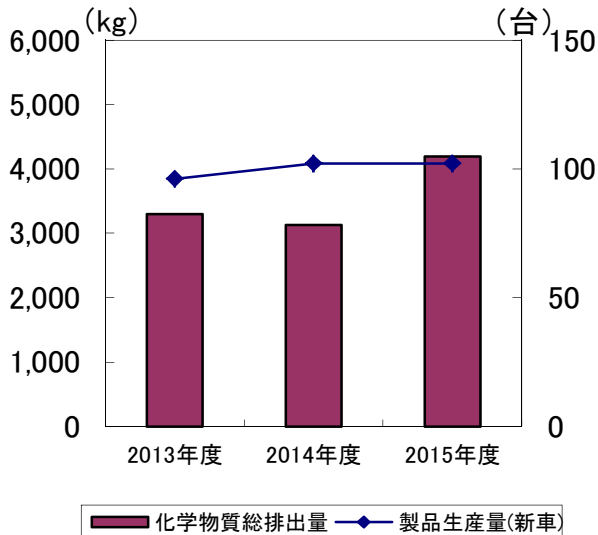
二酸化炭素排出量割合 2015年度



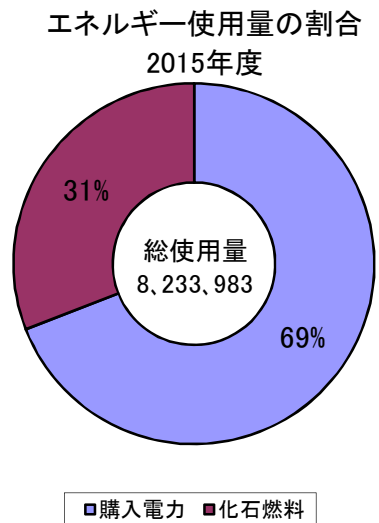
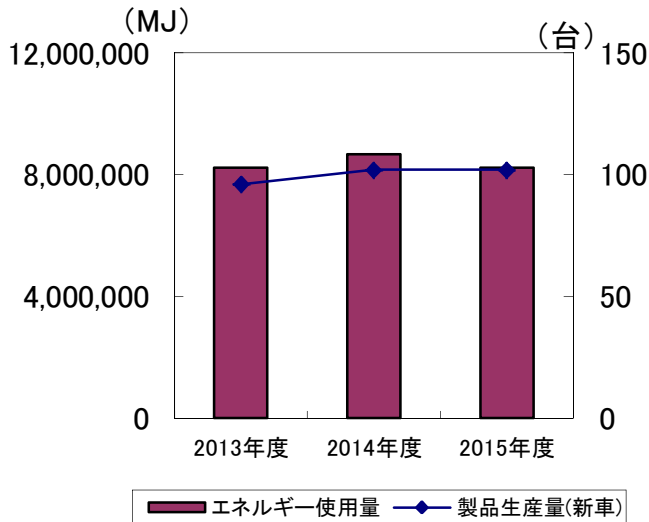
廃棄物排出量



化学物質使用量



エネルギー使用量



5. 環境目標(中期3ヵ年計画)

2015年度～2017年度

環境中期目標の主要項目

2015年6月 制定

重点施策	目的	環境目標			
		2015年度	2016年度	2017年度	
1 環境負荷の削減	1.1 省エネルギー・省資源	CO ₂ 排出量削減 (t-CO ₂)	378.9	375.1	371.3
		使用電気量削減 (kWh)	593,900	587,960	572,080
		都市ガス使用量削減 (m ³)	31,680	31,365	31,050
		灯油使用量削減 (ℓ)	9,505	9,410	9,315
		水使用量削減 (m ³)	1,255	1,245	1,230
		化学物質使用量の削減 (kg)	5,346	5,293	5,240
	1.2 廃棄物削減	業務上発生する産業廃棄物排出量の削減 (kg)	58,510	57,925	57,345
2 環境取組への取組の推進・向上	2.1 グリーン購入	環境を考慮した事業経営	事務用品 購入	事務用品 購入	事務用品 購入
	2.2 環境コミュニケーションの実施	業界団体の環境活動への参加	負荷物質フリー宣言の再確認	負荷物質フリー宣言の再確認	負荷物質フリー宣言の再確認
		地域住民との交流 外部情報の活用	工場公開継続 環境教育計画の策定 廃棄物業者訪問 展示会の見学 エコツアーへの参加	工場公開継続 廃棄物業者訪問 展示会の見学	工場公開継続 環境教育継続
2.3 その他	省エネ 廃棄物減量	工場照明のLED化 事務所エアコン更新 エア漏れ量の削減 廃棄缶圧縮機導入	工場照明のLED化 塗装工場の省エネ化 デマンドシステム更新	工場照明のLED化	

電力の CO₂ 排出係数は 0.382 kg-CO₂/kWh です

6. 今年度の環境目標(環境活動計画)と実績、次年度の取り組み

6.1 環境負荷の削減

分類	項目	環境目標 環境活動計画	2015年4月～2016年3月 (製造台数102両)			今期の振り返りと次年度の取り組み	
			実績	対目標	評価		
環境負荷の削減	1.1 省エネルギー・省資源	CO ₂ 排出量削減 (t-CO ₂)	378.9	365.9	96.6%	○	昨年、消費の多かった都市ガスの削減(▲10%)が、総排出量の低下に貢献した。次年度も継続する
		使用電気量削減 (KWh)	593,900	570,335	96.0%	○	夏季の猛暑によるエアコン稼働増加、冬季の塗装輻輳によるブースの高稼働の悪条件だったが、デマンド監視でピーク電気量を削減(▲12KWh)した。省エネの推進に努める
		都市ガス使用量削減 (m ³)	31,680	28,556	90.1%	○	昨年の多消費の結果を周知したため、全期間レベルダウンが行えた。次年度も継続する
		灯油使用量削減 (ℓ)	9,505	8,965	94.3%	○	昨年度の良好な状態を継続している
		水使用量削減 (m ³)	1,255	1,300	103.6%	○	シャワーテスト車の増加(再テスト、改造車の検査強化)により使用量増大となった。再テストの改善を図る
		化学物質使用量の削減 (kg)	5,346	4,188	78.3%	○	防火対策として危険物の管理改善と併せて、健康障害防止のため無溶剤化を推進していることで、目標値を達成した。次年度も継続して進めていく
	1.2 廃棄物削減	業務上発生する廃プラ量の削減 (kg)	58,510	54,430	93.0%	○	昨年度の良好な状態を継続している

電気のCO₂排出係数は 0.377Kg-CO₂/kWh で計算しています

6.2 環境への取り組み

分類	目的	環境目標 環境活動計画	2015年4月～2016年3月 (製造台数102両)		今期の振り返りと次年度の取組み	
			取組結果	評価		
環境への取組	2.1 グリーン購入	事務用品の優先購入	<ul style="list-style-type: none"> ・購入品の対象拡大 ・購入部署の拡大 	旧書類廃棄時発生したファイルを再使用 製造部の購入量は僅少だった	○	今後も継続
	2.2 顧客サービス	業界団体の環境活動への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・車工会環境活動への参加 	環境委員会へは皆勤 解体工場見学会 2名参加	○	10月にフリー宣言のフォローアップを実施。次年度も継続する
		地域住民との交流 外部情報の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・工場公開の実施 ・廃棄物処理業者訪問 	隣接している京王重機整備(株)と合同で工場公開を10/18に実施 廃棄物業者の工場見学 4名参加	○	工場公開来場者383人。 廃棄物業者訪問は業者数拡大し、次年度も実施を計画している
	2.3 その他	省エネ	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所エアコンの更新 ・工場照明のLED化 	事務所エアコン 夏季前に更新 LED採用はメーカー決定、試用開始	○	次年度は上期からLED化を進め、下期の節電を実現したい
		廃棄物減量	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄缶圧縮機導入 	圧縮機は導入せず、運用を改善することに決定	○	運用改善による、廃棄物削減を進める

7. 環境関連法規等の遵守状況並びに違反、訴訟等の有無

当社に適用される主な環境関連法規は、廃棄物処理、騒音・振動、化学物質・危険物、消防、及び車両・輸送関係であります。これらの法律及び条令に基づき適切に対応しており、違反はありません。また訴訟に関しては過去5年間ありません。

8. 代表者による評価と見直し

本年度の環境目標はCO₂削減など概ね達成することができた。課題であった「都市ガス」消費については、問題点として社内に周知したことにより、計画を達成した。製造工程が冬季に集中し、塗装の乾燥に多くのガスを消費することは当社の課題であるが、使用量の管理を引き続き進めていくことが望ましい。

フロン排出抑制法の施行に合わせ、今年度から第一種特定製品の簡易点検を開始するとともに、弊社の所属する（一社）日本自動車車体工業会（車工会）の「環境負荷物質フリー宣言」については、毎年上期に活動の再確認を実施することにした。

また、工場設備、工作機械等の省エネ化についても継続して検討を行っており、その一環として前年度に受診した「省エネルギー診断」に基づき、工場作業灯のLED化のトライアル試用を開始した。LED化の取り組みは、費用対効果を考慮しながら来年度以降も検討を進めてほしい。

本システムの趣旨、精神は全従業員に浸透しつつあり各部への定着をさらに進めるため、全社の業務改善活動（One1019）の中で、各部毎に環境の観点を取り入れた取り組みを設定して実行することで、全社で環境活動を推進した。

来年度は、社内に浸透している品質マネジメントシステム（ISO9001）の取り組みを進める中で、環境の観点も同時に意識することで、品質と同レベルまで環境に関する意識が深化されていくことが望ましい。